

(開始 午前 11時 22分)

**議長 (萩原由一)**

5番、丸山邦久 議員。

(「はい、議長。5番。」の声あり)

(5番 丸山邦久 議員 登壇)

## 1. 木島平村の観光業の今後について

**5番 丸山邦久 議員**

それでは、通告に基づきまして私の方から2項目にわたって質問をしたいと思います。

本会議の補正予算に木島平観光(株)に対して5,000万円の商工費補助金が含まれています。今までも多額の公金がつぎ込まれていて、正直またかと感じます。

この5,000万円の補正予算は、当初2月24日の3月議会初日に議案が出され、即日承認するよう、まさに今流行りの言葉で言えば無茶ぶりを議会に求められました。議会側からの反発を受け、3月3日に日程を変更されて承認されました。承認されたと言っても、承認しないと3月末で観光(株)が倒産すると脅迫のような発言まであり、もろ手を挙げて賛成した議員はいないと考えております。やむなく「賛成」というのが情だと認識していただきたいと思います。

先ほど多額の公金がつぎ込まれて来たと言いましたが、国から給付されたコロナ関係の持続化給付金については、村の裁量で使い方を決めることができる金額の2分の1以上が、観光(株)の存続のために使われてきています。

7年前、村長選に初めて立候補された時「村民に寄り添う」と発言されていましたが、今は完全に木島平観光(株)に寄り添っているように感じます。村民の福祉の向上のために使うべき公金を削り、つまり村民に不自由を強いて、観光(株)にどんどんつぎ込んでいると感じるわけです。これは大いに問題があります。

そこで伺います。

この5,000万円は、何のために使われるお金なのか。この画面を見ていらっしゃる村民の方に理解できるように説明をしていただきたい。

2点目、この議案を上程した時点で、木島平村観光(株)は会社法にのっとり正式な手続きを完了しているかお尋ねしたい。

3点目、今回の5,000万円を使い終わるまでに観光(株)の問題が解決しない場合、つまり民営化が完了できなかった時は、更にまた公金をつぎ込むおつもりですか。

4点目、日本政策投資銀行から観光(株)が借りている3,000万円の返済を村が肩代わりすることはあってはならないと思いますが、どうするつもりなのか、村が肩代わりをするか、しないか、二者択一で答弁をお願いします。

**議長 (萩原由一)**

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

**村長 (日碁正博)**

丸山議員の「木島平の観光業の今後について」というご質問にお答えいたします。

ご質問の中で、「木島平観光に寄り添って」という発言がありましたが、それは全くの誤解であります。これまでも申し上げておりますとおり、飽くまでもやはり村で観光に携わっている皆さん

の生活と経済を守るため、そのためには運営会社である木島平観光がしっかりと経営を維持できる、そういうことを考えてのことでもありますので、その辺は誤解のないようお願いしたいと思います。

スキー場や馬曲温泉、やまびこの丘公園など、村の施設を運営する第三セクター木島平観光（株）に対する施設運営補助金で、目的についてですが、公共的な観光施設を運営している第三セクターであり、事業継続のための補助金となります。

これらの施設については、村の観光を中心とした地域活性化を図る施設であるため、経営に対する指摘があることは承知しておりますが、経営を維持していくために必要な経費と考えております。詳細について、担当課長に答弁をさせます。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは、村長の答弁に補足をいたしましてお答えをいたします。

2点目、「議案上程の時点で木島平観光株式会社では、会社法に基づく承認がなされていない中での予算化について」ということでございます。

村では、改革担当参事も置きながら適正運営をお願いしているところで、村としても当然経営が厳しい状況は把握しており、早急に予算編成も必要なことから、議会でもお願いしたところであります。

会社法の運用は、木島平観光株式会社で適正に運営していただくようお願いするところであり、先日28日に行われた取締役会でも決定されたものであります。

ご指摘の、村の予算化と会社での意思決定である取締役会の決定について、手順の前後があったことはお詫びを申し上げます。

3点目、4点目であります「5,000万円で木島平観光株式会社の経営が立ちゆかなくなった場合、更に公金をつぎ込むのか」ということと、併せて「返済は村が肩代わりするのか」というご質問であります。

これまでもお答えしたとおり、施設の民営化に向けて進めております。何とかスムーズに民間に事業移行をしていきたいと考えておりますので、それまで事業継続していくための資金と捉えており、追加は考えておりません。

また、負債も村は、負担していかないと考えております。

## 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

## 再質問

### 5番 丸山邦久 議員

今、課長から「更に追加要求はしない」と、それから「借入金の返済については肩代わりはしない」というお言葉をいただきましたが、これは村長のお言葉と考えていいわけですね。それが1点目です。

それから、先ほどの会社法につきましては、会社法で大きな財産の取得に関しては、取締役会の承認を得ることが規定されております。会社法違反の状態の上程されたことについては、やはり村

長みずからが法律を破ると、こういうことでもありますので、嚴重に反省をしていただきたいなと思っております。

また、村長は今まで議会において、「第三セクターの改革をする」とか、「人事の大幅な見直しをする」とか、「指定管理について検討する」とかとおっしゃいました。全くそのことについては、主だった効果は出てないように思います。むしろやってないと考えた方がいいと思います。そういった状況できたことで、観光（株）が大きな出費の無駄ですね、してきたことは紛れもないことでもあります。

なぜなら、あのような企業において、全ての企業がこんなに多くの補助金をしてもらっているわけでもなければ、行き詰まって経営破綻しているわけでもないです。先日も言いましたが、飯山市の戸狩スキー場では800万、斑尾高原スキー場においては800万、これは去年の数字ですが、それで運営してきているんです。そういう事実があるということは相当経営が甘かったということを実感してもらわなければならない。この辺は大いに観光（株）の代表取締役社長である村長に反省を求めていきたいと思っております。

今、私が一番懸念している、これから更に公金をつぎ込むのか、また、返済を村が肩代わりするのか、ということについて返答をいただきましたので、村長の言葉であると言っていたら私はこの件について再度質問することはないと思っておりますが、その点を1点お願いします。

#### **議長（萩原由一）**

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

#### **村長（日碁正博）**

答弁については、村長の答弁ということでもあります。

ただし、それについてはやはり村民の皆さん、議会の皆さんのご理解等がないと、結果としてできない状況もあるかもしれません。是非それについては、ご理解をいただきながら進めていきたいと考えております。

#### **議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

#### **5番 丸山邦久 議員**

今、あの危機感が足りないという話をしましたが、複数の社外取締役は観光（株）がこのような危機的な状況に陥っていることさえもご存知なかった。取締役会ですらこの有様ですから、従業員に危機感など持てるわけもなく、非常に企業としての企業統治ができていない。

是非、この5,000万円の使い方に当たっては、シビアに考えていただき、破綻する前に、是非目的を達せられるように祈っております。これは意見でありますので、返答は要りません。

## **2. 経済政策について**

#### **議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

#### **5番 丸山邦久 議員**

それでは2点目に入らせていただきます。

日墓村長になってから7年以上の歳月が過ぎています。この間、水害、雪不足、コロナの影響はあると思いますが、それを勘案しても、村の経済は以前にも増して沈滞していると感じています。

また先日、村の3分の1以上の世帯が非課税世帯であることを知りました。これでは豊かな村とは言えないと思います。日墓村長は、この村が経済的に豊かになるような政策は行っていないようにも思いますし、また、考えてもいないのではないかとはいいます。

そこで伺います。

1 番目、現状の村の経済状態をどのように捉えていますか。

2 番目、この7年間に実施し、成果があった経済政策はありますか。

3 点目、選挙時に若い人の企業を助けると言っていたが、実現できていません。また、小規模なオフィスを作り企業を助けると言っていたが、これも実現できていない。どのように考えているのか。

4 点目、今後実施しようとする、している経済政策はありますか。

以上、お願いします。

## 議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

## 村長（日墓正博）

丸山議員の「村の経済政策について」というご質問であります。

村民生活がどうなっているのか、それをしっかりと把握する手段、個々の世帯の状況等なかなか把握するのは難しいということではありますが、一つの指標とすれば、村の村税収入だろうと思います。過去10年、村の村税収入は、だいたい村民税それから法人税、固定資産税等が中心であります。ほぼ4億前後で推移をしております。

村の人口が減って働く皆さんが減っている中では、ほぼ村税額を維持していることはそれなりに、困窮しているというふうには言えないと私は考えております。そしてまた、住民税非課税世帯がそのまま困窮世帯ということではありません。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大、景気の低迷によりまして、生活困窮者臨時特別交付金の支払いの準備を進めております。村内の世帯数はおよそ1,820ほどであります。そのうち、約540世帯が住民税非課税世帯となっております。

しかし、その全てが困窮世帯として給付対象になるわけではありません。中には同居していても住民基本台帳上では世帯を分離している家庭や、他市町村で納税を申告しその後村に転入した皆さんも非課税世帯に含まれております。

また、他市町村から望岳荘などの施設へ入所し、住所地特例によりまして、1人世帯として村に住所を置いている方が84名おります。多くは他市町村の親族の扶養となっており、住民税非課税世帯にはそのような皆さんも含まれております。母子世帯や障害などで収入が少なく、少ないという世帯は20数世帯であります。高齢者と65歳未満の家族と同居している世帯が100件弱ありますが、給付対象となるかどうか、申告に基づき調査をしております。

実際に給付対象となるのは、多くが主に年金で生活されている高齢者世帯であります。そのため高齢化率が高い市町村では多くなる傾向があると考えております。

ただし、多くの皆さんは現役を退いた高齢者世帯であります。ほとんどの皆さんが現役時代には納税していただいた皆さんであります。

経済対策としましては、リフォーム補助、住まいづくり補助金の拡大、空き家改修補助、米のブランド化推進、創業支援金、特産品開発奨励金などを行ってきております。

リフォームの補助は、予算とすれば毎年300万から500万程度であります。住宅改修の需要喚起によりまして約10倍の事業効果となっております。

住まいづくり補助金は、補助額や要件を拡充し、空き家改修とともに、住宅の新築増築に繋がり、いずれも村内業者の施行を条件としているため、大きな経済効果となり、雇用の拡大にも繋がっているのではないかと考えております。

また、創業支援金それから特産品、開発奨励金など行っております。

そしてまた、村の特産品である木島平米であります。米を中心に生計を立てている農家の皆さんは自分で販路を開拓しております。価格決定に当たっては、ブランド化と高品質化が重要であります。ブランド化については、今は県の補助金を受けるなどして力を入れております。また、食味計、味度計、整粒歩合計を農業振興公社に設けて、高品質化に向けて支援をしております。ブランド化と高品質化により農家の皆さんは価格面で有利に販売ができるよう支援をしております。

そしてまた、村では直接村内商品の販売はイベントなどに限られるわけですが、ふるさと納税の推進は村内商品のPRや販売促進に繋がります。年々取り扱い品目を増やし、最近ではコロナの感染拡大が影響していると思っておりますが、寄付額が増え、同時に村内の加工品や農産物などの販売拡大になっております。

また高原シャトル便は、カヤの平の新たな観光資源として活用し、通年観光目指して栄村とともに取り組んでおります。新型コロナの感染拡大で中断しておりますが、アフターコロナに向け準備をしております。

また、スキー場などの観光産業は多くの村民の雇用の場の確保であり、外貨の獲得の大きな柱であります。昨シーズンのリフト券半額補助は、半額の反響が大きく、苦境の中でも大きな経済効果を上げました。

新型コロナ感染拡大が始まって以降、打撃を受けている産業の持続化と消費喚起策を重点に行っております。国・県の他に村独自でもプレミアム商品券や、村内商品券、独自の持続化給付金など、村内経済を維持するための様々な経済対策を行っております。

早稲田大学との交流の中で、ワーケーションなどに取り組んでまいりましたが、コロナによって中断するなど、オフィスの誘致は進んでおりませんが、今後とも取り組んでまいります。

国の制度である地域活性化起業人を起用し、外部、主に都市から見た村内の新たな資源の発掘と価値向上を目指しております。

今後実施しようとしている経済対策としましては、まだまだコロナ禍が大きく影響している状況なので、まずは消費喚起による地域経済の回復対策、そしてまた新規事業への支援や企業支援なども併せて進めていきたいと考えております。

そしてまた、観光施設の民営化に伴う事業も、村や地域に与える影響も大きくなると考えておりますので、事業者との連携により地域経済に寄与できるよう進めていきたいと思っております。

## 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

## 再質問

## 5番 丸山邦久 議員

今懇切丁寧にお教えいただきましたが、この村の問題点は、若い人が帰って来られるような勤務先が無いことではないでしょうか。それを作るために、今聞いたところでは何の努力もされていない。何も考えられてない。非常に残念であります。

また、スキー場にあれだけ資金を投下して維持しようとしている村長が、村民の中で多数を占める会社員の人たち、その人たちがこの村に住むメリットがないと感じている。

例えば飯山駅の駐車場の全額補助とか、シャトル便の通勤時間帯の増便を検討したらいかがかなと思うわけでありませう。

まだ他にもやれることはあるかもしれませんが、そのぐらひは会社員の人たちに便宜を図って、この村にいてもらうことを図ったらいかがでしょうか。そのように私は思います。

また、創業者支援として創業しようとする人、これは主に若い人ですが、どのような支援を望んでいるか調査をした方が良く思っているのですが、調査したことはありますでしょうか。

以上、3点お答えください。

## 議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

## 村長（日碁正博）

若者の定住とか考えてないということがありましたが、全くそれは大きな間違いであります。村でも移住定住推進係を設けておりますが、移住だけでなくやはり定住が大きな力を入れたわけでありませう。

そんなことで、住宅の改修に当たっては後継者が住宅に入った場合の補助等も進めておりますし、それからまた、村で生活する上でやはり大きな柱となってくるのは子育て環境等だと思ひませう。

そんなことで、子育て関係、そしてまた、教育環境の充実に力を入れている。これについては若い皆さんが移住だけでなく、村に住み続けていただくための対策ということで、それらについては様々行っていると思ひしております。

それからまた、シャトル便についてであります。現在の利用状況でいうとなかなか増便というのは難しいわけではあります。駐車場の利用については村の方で補助をするということで、通勤、それからまた、通学の皆さんにもご利用いただいております。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは村長の答弁に補足してお答えいたします。

「創業支援の関係」でございます。

創業支援については、平成29年度から事業を開始してございまして、今現在4件のご利用をいただいております。

丸山議員ご質問の「若者等への調査」ということでございますが、今までは調査した経緯はございません。そういったご意見も参考にしながら、今後、移住も含めてどのようなニーズがあるかというのは、調査の中でも把握をしていきたいと考えております。

#### 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

#### 再々質問

##### 5番 丸山邦久 議員

今、村長から「移住定住の促進」というお答えをいただきましたが、私は一言も移住定住についてと質問はしておりません。

若者が帰って来られるような勤務先が無いことを問題にしているのです。それについて村長は何か考えるところがあるのか。

もう1回答弁をお願いします。

#### 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

#### 産業課長（湯本寿男）

それでは、丸山議員の再々質問の中で「帰ってこられるような対策・施策」ということでございます。

移住定住の関係でございますけれども、その中の1つとしてUターンも想定をした、例えばUターンの住宅改修補助金ですとか、今現在実施をしております。

また、今後ですけれども、やはり村の中で雇用を確保していく、作り出していくというのは非常に時間もかかりますし、難しい面もあるというふうに感じておりますので、例えば村から長野市へ通うとか、そういった形の中でも村に住みながら、住みやすい環境が補助を出せるような形で、ちょっと今調査を始めたところではありますけれども、そういったことも想定をしていきたいと考えております。

#### 議長（萩原由一）

以上で、丸山邦久 議員の質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午後 1時 00分をお願いします。

（終了 午前 11時 49分）